



## ATA 190 の設定

テレフォニー機能を設定してユーザを割り当てるには、Cisco Unified Communications Manager の管理ページを使用します。

この章では、これらの設定およびセットアップについて、手順の概要を示します。これらの手順の詳細については、Cisco Unified Communications Manager のマニュアルを参照してください。

### ATA 190 で使用可能なテレフォニー機能

表 4-1 に、サポートされているテレフォニー機能をリストします。これらの機能の多くは、Cisco Unified Communications Manager の管理ページを使って設定可能です。

表 4-1 ATA 190 のテレフォニー機能

機能	説明	設定の参照先
オーディオメッセージ受信インジケータ	<p>ハンドセットまたはスピーカーフォンから聞こえる断続トーンにより、ユーザが回線で新しいボイスメッセージを 1 つ以上受信したことが示されます。</p> <p>(注) 断続トーンは回線によって異なります。この音が聞こえるのは、使用中の回線でメッセージを受信した場合のみです。</p>	<p>詳細については、次のマニュアルを参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の「<a href="#">Message Waiting Configuration</a>」</li> <li>『Cisco Unified Communications Manager System Guide』の「<a href="#">Voice Mail Connectivity to Cisco Unified Communications Manager</a>」</li> </ul>
C 割り込み	<p>共有電話回線でプライベート コール以外のコールに参加できます。C 割り込によってユーザがコールに追加され、会議に変換されることにより、ユーザと他の通話者が会議機能にアクセス可能になります。</p> <p>ATA 190 は会議ブリッジの割り込みをサポートしています。</p>	<p>詳細については、次のマニュアルを参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の「<a href="#">Cisco Unified IP Phone Configuration</a>」</li> <li>『Cisco Unified Communications Manager System Guide』の「<a href="#">Cisco Unified IP Phones</a>」</li> <li>『Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide』の「<a href="#">Barge and Privacy</a>」</li> </ul>

表 4-1 ATA 190 のテレフォニー機能(続き)


機能	説明	設定の参照先
コール転送	ユーザは、着信コールを別の番号にリダイレクトできます。コール転送オプションには、不在転送、話中転送、および無応答時転送があります。	<p>詳細については、次のマニュアルを参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の「<a href="#">Directory Number Configuration</a>」</li> <li>『Cisco Unified Communications Manager System Guide』の「<a href="#">Cisco Unified IP Phones</a>」</li> </ul>
コール ピックアップ	ユーザは、自分のピックアップグループに属する別の電話機で呼出音が鳴っている場合に、そのコールを自分の電話機にリダイレクトできます。	<p>詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide』の「<a href="#">Call Pickup</a>」を参照してください。</p>
コール ウェイティング	コールの最中に別の着信コールの呼出音が鳴っていることを通知し、ユーザが応答できるようにします。着信コールの情報を電話スクリーンに表示します。	<p>詳細については、『Cisco Unified Communications System Guide』の「<a href="#">Understanding Directory Numbers</a>」の章を参照してください。</p>
発信者 ID	電話番号、名前、その他の説明テキストなど、発信者の識別情報を電話スクリーンに表示します。	<p>詳細については、次のマニュアルを参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の「<a href="#">Cisco Unified IP Phone Configuration</a>」</li> <li>『Cisco Unified Communications Manager System Guide』の「<a href="#">Understanding Route Plans</a>」</li> <li>『Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide』の「<a href="#">Call Display Restrictions</a>」</li> <li>『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の「<a href="#">Directory Number Configuration</a>」</li> </ul>
会議	<ul style="list-style-type: none"> <li>ユーザは、各参加者を個別に呼び出して、複数の通話相手と同時に話すことができます。会議機能には、アドホック会議、C 割り込み、およびミーティングがあります。</li> <li>標準(アドホック)会議の開催者は、参加者を追加または削除できます。</li> </ul>	<p>詳細については、次のマニュアルを参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>『Cisco Unified Communications Manager System Guide』の「<a href="#">Cisco Unified IP Phones</a>」</li> </ul> <p> (注) ユーザに対し、これらの機能がアクティブであるかどうかを必ず通知してください。</p>

表 4-1 ATA 190 のテレフォニー機能(続き)

機能	説明	設定の参照先
直接転送	2つのコールを相互接続できます。接続完了後は、回線から離脱できます。	詳細については、『 <i>Cisco Unified Communications Manager System Guide</i> 』の「 <a href="#">Cisco Unified IP Phones</a> 」の章を参照してください。
強制承認コード (FAC)	特定のユーザが発信できるコールのタイプを制御します。	詳細については、『 <i>Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide</i> 』の「 <a href="#">Client Matter Codes and Forced Authorization Codes</a> 」の章を参照してください。
グループ コール ピックアップ	ユーザが、別のグループの電話番号で呼び出し音が鳴っているコールに応答することができます。	詳細については、『 <i>Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide</i> 』の「 <a href="#">Call Pickup</a> 」を参照してください。
保留/復帰	ユーザは、接続されたコールをアクティブな状態と保留状態の間に移行できます。  (注) 共有回線通話者からのコールの再開はサポートされていません。	詳細については、次のマニュアルを参照してください。  設定は必要ありません。ただし、保留音を使用する場合には必要です。詳細については、この表の「 <a href="#">保留音</a> 」を参照してください。
ミーミー会議	ユーザがミーミー会議を開始し、参加ユーザは予定の時刻に、あらかじめ決められた番号にコールをかけます。	詳細については、『 <i>Cisco Unified Communications Manager Administration Guide</i> 』の「 <a href="#">Meet-Me Number/Pattern Configuration</a> 」の章を参照してください。
メッセージ受信	メッセージ受信オン インジケータおよびオフ インジケータ用の電話番号を定義します。直接接続型のボイス メッセージ システムでは、指定された電話番号を使用して、特定の Cisco Unified IP Phone のメッセージ受信インジケータを設定したりクリアしたりします。	詳細については、次のマニュアルを参照してください。  <ul style="list-style-type: none"> <li>『<i>Cisco Unified Communications Manager Administration Guide</i>』の「<a href="#">Message Waiting Configuration</a>」</li> <li>『<i>Cisco Unified Communications Manager System Guide</i>』の「<a href="#">Voice Mail Connectivity to Cisco Unified Communications Manager</a>」</li> </ul>
保留音	発信者が保留状態になっている間、音楽を再生します。	詳細については、『 <i>Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide</i> 』の「 <a href="#">Music On Hold</a> 」を参照してください。

表 4-1 ATA 190 のテレフォニー機能(続き)

機能	説明	設定の参照先
プライバシー	回線を共有しているユーザがコールに自分を追加することを禁止します。	詳細については、次のマニュアルを参照してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の「Cisco Unified IP Phone Configuration」</li> <li>『Cisco Unified Communications Manager System Guide』の「Cisco Unified IP Phones」</li> <li>『Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide』の「Barge and Privacy」</li> </ul>
リダイヤル	ユーザは、*# 機能コードを押して、最後にダイヤルした電話番号に発信できます。	設定は必要ありません。
シェアライン	ユーザは、複数のデバイスで同じ電話番号を共有したり、電話番号を同僚と共有したりできます。	詳細については、『Cisco Unified Communications System Guide』の「Understanding Directory Numbers」の章を参照してください。
スピードダイヤル	ユーザは、*と事前に割り当てたインデックスコード(1～199)を電話機のキーパッドで入力することで、電話番号をすばやくダイヤルできます。 例:インデックスコード199の電話番号をダイヤルするには、*199を押します。 ユーザは、Cisco Unified Communications Managerの[Device]ウィンドウの[Line configuration]でインデックスコードを割り当てます。	詳細については、次のマニュアルを参照してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の「Cisco Unified IP Phone Configuration」</li> <li>『Cisco Unified Communications Manager System Guide』の「Cisco Unified IP Phones」</li> </ul>
タイムゾーンのアップデート	デバイスを更新してタイムゾーン変更を反映させます。	詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の「Date/Time Group Configuration」を参照してください。
ボイスメッセージシステム	コールに応答がない場合に、発信者がメッセージを残せるようにします。	詳細については、次のマニュアルを参照してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の「Cisco Voice-Mail Port Configuration」</li> <li>『Cisco Unified Communications Manager System Guide』の「Voice Mail Connectivity to Cisco Unified Communications Manager」</li> </ul>

## プロダクト固有の設定パラメータの設定

Cisco Unified Communications Manager の管理ページでは、ATA 190 のプロダクト固有の設定パラメータを設定できます。表 4-2 は、パラメータを設定するための設定ウィンドウと、それぞれのアクセス方法をリストしています。

表 4-2 設定情報

[Configuration] ウィンドウ	パス
[Phone Configuration] ウィンドウ	[Device] > [Phone] ウィンドウの [Product Specific Configuration] 部分

表 4-3 に、Cisco Unified Communications Manager の管理ページを使用して設定できる設定パラメータをリストします。表 4-2 の設定ウィンドウを使用して、設定パラメータを設定できます。



(注)

いくつかの ATA 190 パラメータは、ポート 1 からのみ設定されます。これらのパラメータをポート 2 から設定しても、適用されません。[IVR Password]、[CDP]、[Impedance]、[Input/Output Audio Level]、[Timers]、[Call Sequence] パラメータは、ポート 1 からのみ設定してください。

表 4-3 ATA 190 の設定パラメータ

パラメータ	説明
Auto Barge	自動割り込みにより、アクティブ コールにユーザが追加されます。オフフック状態の電話機はそのユーザ(コール開始者)を共有回線コール(ターゲット)に自動的に追加し、現在通話中の全ユーザはトーンを受信します(設定されている場合)。割り込みでは、会議ブリッジをサポートしています。
Cisco Discovery Protocol (CDP) :	ATA 190 の CDP 機能を有効または無効にします。
Echo Cancellation	エコー キャンセラの使用をイネーブルまたはディセーブルにします。
Fax Mode	Cisco ATA 190 では、次の FAX モードをサポートしています。 <ul style="list-style-type: none"> <li>FAX パススルー:re-INVITE 方式での音声ポート経由の FAX およびモデム トラフィックを可能にします(コーデックは g711ulaw または g711alaw にすることができます)。</li> <li>NSE FAX パススルー g711ulaw:コーデック g711ulaw による NSE 方式での音声ポート経由の FAX トラフィックを可能にします。</li> <li>NSE FAX パススルー g711alaw:コーデック g711alaw による NSE 方式での音声ポート経由の FAX トラフィックを可能にします。</li> <li>T.38 ファクス リレー:より堅牢なプロトコルを使用して、パケット ネットワーク経由で FAX 送信を行うことができます。</li> </ul>

表 4-3 ATA 190 の設定パラメータ (続き)

パラメータ	説明
Fax Error Correction Mode Override	FAX エラー訂正モード オーバーライドを、次のいずれかの値に設定できます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>デフォルト</li> <li>点灯</li> <li>消灯</li> </ul>
FAX Disable ECAN	FAX トーンの検出時にエコー キャンセラをディセーブルにするには、このパラメータを <b>yes</b> に設定します。
Modem Line	このパラメータを <b>yes</b> に設定すると、コールはモデムコールとして扱われます。ATA 190 は、VAD、ジッターバッファ、エコー キャンセラを自動的に調整します。
Fax T38 Return To Voice	T.38 FAX の完了後に音声コールバックが必要な場合は、このパラメータを <b>yes</b> に設定します。
FAX 音検出モード	このオプションは、どちら側で FAX 音 (ファックスをトリガーする) を検出するかを制御します: <ul style="list-style-type: none"> <li>発信者または呼び出し先</li> <li>発信者のみ</li> <li>呼び出し先のみ</li> </ul> デフォルトでは、発信側または呼び出し先です。
IVR Password	ATA 190 の IVR パスワード。デフォルトは 24726 です。
Input Audio Level	ネットワークから電話機までのゲイン値
Output Audio Level	電話機からネットワークまでのゲイン値
Impedance	ATA 190 は、米国で使用する 600 Ω をはじめ、複数のインピーダンス値を提供します。
Caller ID	<ul style="list-style-type: none"> <li>BT FSK</li> <li>Bellcore FSK</li> <li>ETSI FSK</li> </ul>
Call Sequence	<ul style="list-style-type: none"> <li>Bellcore FSK</li> <li>ETSI FSK</li> </ul>
プログレス トーンのミュート	コールの確立時に、Cisco ATA 190 のすべてのプログレス トーンをミュートにするには、このパラメータを [On] に設定します。 デフォルト設定:[Off]。
<b>呼出音とコール ウェイティング トーンの仕様</b>	
リング波形	呼び出し信号の波形です。 正弦波と台形波が選べます。 デフォルト設定:台形波。

表 4-3 ATA 190 の設定パラメータ (続き)

パラメータ	説明
呼び出し音間隔 (15 ~ 50Hz)	呼び出し信号の周波数です。 有効な値は 15 ~ 50 (Hz) です。 デフォルト設定: 20。
リング電圧 (60 ~ 90V)	呼び出し信号の電圧です。 60 ~ 90 (V) が選ばれます。 デフォルト設定: 85。
<b>タイマー</b>	
Offhook Validation Timer (50-1000ms)	オフフック イベントを認可する時間を指定します。 (注) このパラメータは、予約されていますが、適用されません。
Onhook Validation Timer (50-1000ms)	オンフック イベントを認可する時間を指定します。
Hookflash Timer (100 to 1500 ms)	フックフラッシュ イベントを認可する時間を指定します。
Onhook Delay Timer (0 to 155 ms)	オンフック イベントを遅らせる時間を指定します。 (注) このパラメータは適用されません。
Reorder Delay (0-30s)	遠端側が切断されてからリオーダー音が再生されるまでの遅延。
RTP Packet Time (10-160ms)	RTP のパケット サイズ (ミリ秒単位)。



(注)

ユーザは、ATA 190 の Web ページにアクセスして、制限された設定を実行できます。管理モードとユーザモードの2つのアクセスモードがあります。

- 管理モードのデフォルトのユーザ名/パスワードは、**admin/admin** です。
- ユーザモードのユーザ名/パスワードは、**cisco/cisco** です。

管理モードでは、ほとんどの情報および設定を使用できます。

ユーザは、[Administration] > [Management] > [User List] ページでユーザ名/パスワードを変更できます。

ユーザモードでは、制限された情報およびアクセスのみを使用できます。

## Cisco Unified Communications Manager へのユーザの追加

ユーザを Cisco Unified Communications Manager に追加すると、ユーザに関する情報を表示および管理できるようになります。また、ユーザは、次のタスクを実行できるようになります。

- ATA 190 から社内ディレクトリや他のカスタマイズされたディレクトリにアクセスする。
- パーソナルディレクトリを作成する。

- スピードダイヤルとコール転送の番号をセットアップする。
- ATA 190 からアクセス可能なサービスに登録する。

ユーザを Cisco Unified Communications Manager に追加するには、次の方法を使用します。

- ユーザを 1 名ずつ追加するには、Cisco Unified Communications Manager の管理ページで [User Management] > [End User] を選択します。

ユーザの追加に関する詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』を参照してください。ユーザ情報に関する詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』を参照してください。

## ディセーブルにすることができる 2 番目の回線

バージョン 1.2.1 から、ユーザは Cisco ATA 190 ボックスの 2 番目のポートをディセーブルにするよう選択できます。これにより、お客様はライセンスのコストを節約することができます。

ユーザは、ATA 190 の Web ページで 2 番目のポートを簡単にイネーブルまたはディセーブルにすることができます。

イネーブルまたはディセーブルの操作の後、変更を有効にするために ATA 190 がリセットされます。

ディセーブルの場合、ATA 190 はこのポートの TFTP サーバから設定ファイルを取得しません。

### 設定

1. Cisco ATA 190 の Web ページで、[Voice] > [Line 2] > [Line Enable] に移動します。
2. イネーブルにする場合は **yes** を選択し、ディセーブルにする場合は **no** を選択します。
3. [Submit] をクリックします。`変更を有効になるまで 40 秒待ちます。

## 特定業種向けサービス アクティベーション コードを変更可能

バージョン 1.2.2 から、ユーザは Cisco ATA 190 ボックスに付属の特定業種向けサービス アクティベーション コードのデフォルト値を変更できます。これにより、お客様は特定業種向けサービス アクティベーション コードをカスタマイズできます。

ユーザは ATA 190 の Web ページでこの値を変更するだけです。

変更操作の後、変更を有効にするために ATA 190 がリセットされます。

### 設定

1. Cisco ATA 190 の Web ページで、[Voice] > [Regional] > [Vertical Service Activation Codes] に移動します。
2. 変更するコードをクリックし、新しい値を入力します。
3. [Submit] をクリックします。`変更を有効になるまで 40 秒待ちます。